

施策マネジメントシート

作成日 平成 28 年 8 月 31 日

| | | | |
|-----------|----------------------|----|--------|
| 施策 | 1-1 美しい環境を大切にする社会づくり | | |
| 施策 主管課 | 環境推進課 | 氏名 | 小宮山 昌彦 |
| 施策 関係課 | まちづくり整備課 | | |

1. 現状把握 Plan→Do

(1) 施策の目的と指標

| | |
|--|---|
| ① 対象 (誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 ◇ごみ ◇市民 | ③ 対象指標名称 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない (単位) |
| | a 一般廃棄物の総量(生活系+事業系) トン |
| | b 資源ごみ(生活系)の総量 トン |
| ② 意図 (対象をどういう状態に変えるのか) ◇減量化が進む。 ◇再利用化が進む。 ◇環境問題に対する意識が高まり、エコ活動に取り組む。 | c 笛吹市の人口<山梨県笛吹市住民基本台帳行政区別人口統計表(4月1日現在)> 人 |
| | ④ 成果指標名称 (意図の達成度の指標) 数字は記入しない (単位) |
| | d 生活系可燃ごみの減量率 % |
| ⑤ 成果指標設定の考え方 ◇ごみ減量化・再利用化については、市民の取り組みが顕著に表れる生活系可燃ごみの回収量を、H16年と比較して、どれだけ減ったかで判断する。 ◇エコ活動の取り組みは、自然エネルギー利用施設設置補助の状況により、一定の成果を判断する。 | e 住宅用太陽光発電システム設置費補助金交付件数 件 |
| | f エコ活動に取り組んでいる市民の割合 % |
| | g |
| ⑥ 成果指標の取得方法 ◇生活系可燃ごみの軽減率・住宅用太陽光システム設置費補助金交付件数は、環境推進課のデータを集計・算出する。 ◇まちづくり基礎調査⇒設問「あなたは、日ごろからエコ(環境)活動に取り組んでいますか。(例:電気をこまめに消す、マイカーの利用を控える)」に対する分布割合から算出する。 | h |

(2) 指標・事業費等の実績推移と目標値

| | | 23年度 実績、決算 | 24年度 実績、決算 | 25年度 実績、決算 | 26年度 実績、決算 | 27年度 実績、決算 | 28年度 実績、見込み | 29年度 最終目標 |
|----------|---|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------|--------------|
| 対象 指標 | a 一般廃棄物の総量(生活系+事業系) トン | 見込み値 19,563 | 19,836 | 19,990 | 19,938 | 19,886 | 19,834 | 19,782 |
| | | 実績値 19,991 | 19,939 | 19,904 | 20,334 | 20,440 | | |
| | b 資源ごみ(生活系)の総量 トン | 見込み値 3,781 | 3,932 | 3,934 | 3,934 | 3,934 | 3,934 | 3,934 |
| | | 実績値 3,932 | 3,939 | 3,809 | 3,722 | 3,564 | | |
| | c 笛吹市の人口<山梨県笛吹市住民基本台帳行政区別人口統計表(4月1日現在)> 人 | 見込み値 72,000 | 72,000 | 72,000 | 72,000 | 72,000 | 72,000 | 72,000 |
| | | 実績値 72,192 | 72,145 | 71,724 | 71,132 | 70,749 | | |
| 成果 指標 | d 生活系可燃ごみの減量率 % | 成り行き値 28.0 | 28.0 | 28.0 | 28.0 | 28.0 | 28.0 | 28.0 |
| | | 目標値 31.0 | 33.0 | 29.0 | 30.0 | 31.0 | 32.0 | 33.0 |
| | | 実績値 28.0 | 28.0 | 30.0 | 30.0 | 29.2 | | |
| | e 住宅用太陽光発電システム設置費補助金交付件数 件 | 成り行き値 182 | 371 | 370 | 360 | 350 | 340 | 330 |
| | | 目標値 250 | 360 | 420 | 400 | 380 | 360 | 340 |
| | | 実績値 371 | 437 | 274 | 210 | 125 | | |
| | f エコ活動に取り組んでいる市民の割合 % | 成り行き値 73.0 | 73.0 | 73.0 | 73.0 | 73.0 | 73.0 | 73.0 |
| | | 目標値 74.0 | 75.0 | 75.0 | 76.0 | 77.0 | 78.0 | 79.0 |
| | | 実績値 78.3 | 77.6 | 77.2 | - | - | | |
| | g | 成り行き値 | | | | | | |
| | | 目標値 | | | | | | |
| | | 実績値 | | | | | | |
| h | 成り行き値 | | | | | | | |
| | 目標値 | | | | | | | |
| | 実績値 | | | | | | | |
| 施策コスト | 事務事業数 | 本 | 13 | 13 | 23 | 23 | 26 | |
| | 事業費 (A) | 千円 | 870,559 | 1,024,429 | 952,486 | 1,061,612 | 2,305,913 | |
| | うち一般財源 (A') | 千円 | 792,732 | 836,554 | 792,489 | 818,947 | 911,941 | |
| | 人件費 (B) | 千円 | 51,293 | 51,255 | 48,521 | 50,026 | 71,896 | |
| | トータルコスト (A+B) (C) | 千円 | 921,852 | 1,075,684 | 1,001,007 | 1,111,638 | 2,377,809 | |
| | うち一財 (A'+B) (C') | 千円 | 844,025 | 887,809 | 841,010 | 868,973 | 983,837 | |

(3) 施策の目標設定の根拠 (水準の理由と前提条件)

●後期基本計画策定に伴い成り行き値、目標値の再設定を行った。
 ◇生活系可燃ごみの減量率は、基準年度の平成16年度対比で、目標数値の設定をしている。ここ数年の取り組みをもっても、減少幅は微減である。現状の施策等を鑑み努力目標として、H24年度以降毎年1%の削減とした。
 ◇太陽光発電システム設置補助は、買取価格がH24年度をピークに下落方向へ推移しており、それに比例し補助金交付件数も減少する見込みであるが、推進を図り減少数を概ね20件に留める目標を定めた。
 ◇「エコ活動に取り組んでいる」市民の割合を、まちづくり基礎調査から抽出。H22年度実績値72.7%を基準値設定。実績値は毎年増減があるが、努力目標数値として、毎年取り組んでいる割合を、1%増加させることを目標に定めた。

(4) 施策の役割分担 (住民と行政との役割分担)

| | |
|--|--|
| <p>ア) 住民の役割 (住民・地域・団体・事業所が、自助・共助でやるべきこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇市民は、指定されたごみ袋を適切に活用し、ごみの減量に取り組む ◇環境に対する意識を持つ。ごみの減量や分別、資源化に取り組む。 ◇事業所は、エコ活動推進に取り組みながら、廃棄物を正しく処理する。 | <p>イ) 行政の役割 (市・県・国がやるべきこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇市は、家庭ごみの収集・処理を行う。 ◇太陽光発電促進のため新規住宅用設置者に対し支援する。 ◇ごみ減量や地球温暖化防止に向けた啓発活動を行う。 ◇不法投棄防止のための活動を行う。 |
|--|--|

(5)環境変化 (対象者や根拠法令等は5年前と比べてどう変わったのか?)

◇分別方法や収集回数が統一され、コスト削減や利便性の向上につながっている。◇市内大型スーパーにてレジ袋有料化の実施や生ごみの堆肥化が促進され、廃棄物の発生抑制と資源化に対する市民意識が向上している。◇境川町にごみ処理場の建設を平成28年度完成を目指して進めている。◇家庭用太陽光発電システムの設置に対して国・県・市の支援が進められている。◇H22年度に「ごみ減量協働プラン(計画年度H23～H27)」を策定した。◇H22年度に環境基本条例を制定し、「環境基本計画」を策定した。◇H24年度末には環境経営システムである「エコアクション21」の認証を笛吹市役所が取得した。◇平成28年10月から有料指定ごみ袋を施行し、平成29年4月1日から完全実施とする。

(6)関係者の意見・要望 (住民、議会、対象者、利害関係者等)

◇市民から、粗大ごみ回収日を増やしてほしいとの意見がある。◇市民から、いつでも出せるリサイクルステーションを作してほしいとの意見がある。◇行政区役員から、当番の出労の関係で、ごみ収集の頻度が増えないよう要望がある。◇有料指定ごみ袋の導入により不法投棄が懸念されるので厳しく監視して欲しい。

2. H27年度の施策の実績 Check

(1)施策の成果実績

Table with 2 columns: ① 目標達成度評価 (前年度目標値と実績値との比較), ② 時系列比較 (過去3か年の比較), ③ 他自治体との成果実績値の比較. Includes checkboxes for target achievement and comparative results, and detailed background text for each category.

(2)施策のコスト実績 (対象1単位当たり又は住民一人当たりのコスト)

Table with 7 columns: 対象指標名称, (単位), 25年度, 26年度, 27年度, 効率性評価. Rows include metrics like population, unit costs, and unit costs for various services.

(3)施策の現状と課題の総括

◇近年、資源を大切にす循環型社会の構築に向けた取り組みが進んできた。市においても、生活系可燃ごみ減量53%の取組みを進め、H27年度は、H16年度(基準年度)対比で4,588tの減、減量率は約29%であり、昨年比若干の減少しているものの、目標とする53%の減量率を達成することはできていない。平成29年4月の境川ごみ処分場(中間ごみ処理場)の開設に伴い、有料ごみ袋の導入を行うことによりごみの分別化を推進する。今後さらに廃棄物の減量率を伸ばしていくためには、ごみの発生抑制と資源化のため分別収集の徹底と生ごみの水切りの徹底及び堆肥化をより一層促進していく必要がある。◇生活系可燃ごみの中には、事業系ごみの混入も見られることから、事業所に対しては事業系ごみとしての適切な排出と、排出量の抑制に向けた指導と啓発をより一層行っていく必要がある。◇「環境基本計画」については、平成28年度は中間年であることから指標の検証を行い、今後5年間の目標値を設定した取組みを行う。◇地球温暖化防止対策として、市役所では、公共施設から排出されるCO2の削減に取り組み、H27年度は、H19年度(基準年度)対比で約2,367t、約23%の削減成果を収めた。また、市は、環境省が制定したエコアクション21事業にも積極的に参加し、県下自治体初の認証団体となるなど、環境に対する取り組みは活発であるが、この取り組みを更に市民一人ひとりに浸透させていく必要がある。

3.後期基本計画の取り組み方針(29年度) Action

(1)現状と課題から導き出した次年度の取り組み方針

◇ごみ減量については、生活系可燃ごみの中で組成割合の高い生ごみの処理対策に重点をおき、取り組むこととする。◇生活系可燃物の組成を調べると、まだまだ資源物の混入や、一部事業系ごみの混入も見受けられるため、市民や事業者に対して、ごみ資源の循環利用を促していく。◇有料指定ごみ袋の導入により、不法投棄の増加が懸念されることから、その防止のための活動の強化に努める。◇自然エネルギーの活用により、電源の自給自足、地産地消をめざし、地球温暖化防止につながる事業の推進を図っていく。

(2)施策の対象を、目標に導くための次年度の手段

◇地区説明会や店頭キャンペーン等を行い、生ごみの水切りの徹底や、資源物の分別を呼びかけると共に、小中学生等への環境教育を行っていく。◇不法投棄防止の看板の設置や不法投棄パトロール員を設置すると共に、不法投棄物に多い家電製品やタイヤなどの収集に取り組む。◇有料指定ごみ袋の導入により、生活系可燃ごみの削減が図れるよう周知を図る。併せて、可燃ごみの分別が適切に行われるよう分別説明会を実施する。◇市は、エコ活動を進める見本的事業所として、積極的にエコアクション21の取り組みを継続して進め、他の事業者の模範となる。